第十二講・説明的文章⑥

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

5世紀のことです。アカイコという名の美しい少女が、川辺でせんたくをしていました。そこに天皇が通りかかり、アカイコに、宮中でめしかかえるから使いを待つようにいいました。ところがその後、いくら待っても宮中からの使いはきません。アカイコはそれでも待ちつづけ、とうとう80歳のおばあさんになってしまいました。――これは、いまから1300年ほどまえに書かれた『古事記』という本にのっている物語で、日本でもっとも古いせんたくの記録です。日本では、いまから2000年ほどまえから布がおられるようになったといわれ、そのころには、川辺でせんたくをはじめていたと考えられています。

7世紀ごろになると、中国との交流がさかんになり、宮廷では絹おりものが多く使われはじめました。しかしこれは一部の人のことで、大部分の人たちは、麻をはじめ、フジやアケビのつるなどでおった、ゴワゴワした布の服を着ていました。これらの布は、あらえばあらうほど白く、やわらかくなるので、せっせとせんたくされました。「ときあらい衣」ということばも古くからあり、日本ではむかしから、衣服をほどいてあらっていたことがわかります。これは衣服をそのまま丸あらいしていたヨーロッパのせんたくと大きくちがいます。

中国から井戸ほりの技術が入ってくると、せんたくは近くの井戸でおこなわれるようになり、①さまざまなせんたく道具が生まれました。12世紀ごろには、すでに、まるいたらいや、ひしゃく、手おけのほか、伸子やきぬたも使われていました。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

伸子は、細長い竹の両はしに、はりをつけたもので、竹の弾力を利用して布のはばを広げ、のりをつけてしあげるのに使われます。布の長いほうの両はしは、はりのついた棒でとめます。この方法は、いまでも＊1友禅染などに使われています。

　きぬたというのは、木のつちのようなものです。おったり、せんたくした布を、きぬたで打って、やわらかく、目をつまらせ、つや出しをするのです。明治のころまで、きぬた打ちの音は、ふだんの生活の中にひびいてくる音だったのです。②百人一首のカルタのなかにも「……ふるさとさむく　ころもうつなり」と、きぬた打ちのようすがえがかれています。また、室町時代にできた＊2③謡曲にも「砧」というのがあり、夫の帰りを待ちながらきぬたを打つ女がえがかれています。

　江戸時代のなかば、18世紀ごろは平和な時代がつづき、16世紀ごろに④中国から入ってきたもめんが、やっとふつうの人びとにも着られるようになりました。また、衣服の種類や量も多くなり、せんたくをすることもぐっとふえました。

　このころのせんたくの方法は、おもに、たらいと井戸水を使ったもみあらいやふりあらいでした。たらいは、もちろん木で作られていて、いまから30年ほどまえに電気せんたく機が多く出まわるようになるまで使われたのと、ほとんどかわりないものが使われました。

　また、着物をといてあらったものを、戸板にはりつけてしあげる「板張り」も、この時代からおこなわれました。（伸子張りや、板張りしあげをするせんたくを「あらい張り」といい、現在でも高級な和服のせんたくでおこなわれています。）

　その後、20世紀になっても、せんたく板やせっけん、水道を使うようになったほかは、⑤江戸時代とほとんど同じ方法でせんたくしていました。

（津田妍子『せんたくのはなし』）

＊1友禅染＝あざやかな色で文様をそめた布。

＊2謡曲＝歌や舞を組みこんだ「能楽」とよばれる劇で使われる曲。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「さまざまなせんたく道具が生まれました」とありますが、このころ生まれたせんたく道具としてしょうかいされているものを文中から五つ書きぬきなさい。

問二　――線②「百人一首のカルタ」や③「謡曲」の中できぬたがえがかれていることから、どんなことがわかりますか。もっともよいものを次のうちから選(えら)び、記号で答えなさい。

ア　きぬたという当時としては新しいものが、多くの人の注目を集めていたこと

イ　むかしは、きぬたを打つ音以外に大きな音がするようなことがなかったこと

ウ　せんたくのときぎぬたで布を打つことは、当時の生活でありふれた光景だったこと

エ　きぬたが使われるようになってから現在まで、きぬたを打つ音には変化がないこと

問三　――線④「中国から……着られるようになりました」とありますが、それまでふつうの人びとはどんなものを着ていたのですか。次の［　］にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

［　］や、フジやアケビの［　］などでおった、［　］した布の服

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線⑤「江戸時代とほとんど同じ方法」とは、どんな方法ですか。

［　　　　　　　　　　　　］

問五　この文章を、次の四つの意味段落（だんらく）に分けると、それぞれの段落では、どんなことについてのべられていますか。次の［　］にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

第一段落　日本で［　　　　　］せんたくの記録

第二段落　［　　　］ごろの日本のせんたくの様子

第三段落　近くの［　　］で、さまざまな［　　］を使っておこなわれるようになったせんたく

第四段落　［　　］時代以降（いこう）のせんたく

問六　この文章全体では、どんなことについてのべられていますか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　日本のせんたくの歴史

イ　全国各地のせんたくのしかた

ウ　中国と日本のせんたくのちがい

エ　せんたくをあつかった物語や芸術（げいじゅつ）

［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

　せんたくというのは、①衣類のよごれをおとすことです。衣類のよごれは、衣服の種類、季節、場所などによっていろいろちがいます。みなさんの衣類には、どんなよごれがつくでしょうか？

　上着の場合、食事の食べこぼし、絵の具、ほこり、ふけ、遊んだりころんだりしたときの土やどろなどのよごれがつきます。また、ジュースとか、インク、紅茶(こうちゃ)などがつくこともあります。下着には、からだからでるあせやあぶら、あかがつきます。

　よごれた衣服は、空気の通りや湿気(しっけ)をすう力が弱いので、健康にわるく、不衛生(ふえいせい)で、しかも見た目にも不快(ふかい)です。よごれたまま時間をおくと、よごれはとれにくくなるし、においがしてくることもあります。ですから、こまめにせんたくをしなければなりません。

　水は、むかしからせんたくに使われてきました。それというのも、水は、たやすく手に入り、さまざまなものをとかし、においや色がなく、自然にかわきあとにのこらないので、せんたくをするのにたいへん具合がいいからです。

　水は、ほかの薬品とくらべても、いろいろなものをよくとかしますが、あぶらはとかしません。ところが、②衣類のよごれは、あぶらをふくんでいるものが多いのです。

　なかのわるいことを「水とあぶらのようだ」といいますが、ここでひとつ実験をしてみましょう。

　紙の上に、３㎝四方ぐらい、クレヨンをぬりつけます。その上に水を一滴(いってき)たらします。もう一滴、なにもぬってない紙の上にも水をたらしましょう。どうなりましたか？　クレヨンをぬったほうの水は、コロコロした玉になるでしょう。これは、クレヨンのなかのあぶらと、たらした水とがまじり合わないからです。

　③このような水の性質(せいしつ)を、そのままにしておいては、あぶらをふくんだよごれをとることはできません。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

そこで、せっけんや合成洗剤を使って、水の性質をかえてせんたくをするのです。④（コロコロした水の玉に、食器あらい用の液体合成洗剤を１滴たらしてみてください。）

水にとかした洗剤は、つぎのようなはたらきをします。

１．あぶらを小さなつぶにして、水にとかす。（乳化）

２．せんたくものによくしみこんで、水にぬらす。（浸透）

３．水にとけないこまかいよごれを、水の中に散らばらせる。（分散）

４．とけたよごれが、ふたたびせんたくものにつかないようにする。（再汚染防止）

これらは、せんたくものと水のさかいや、よごれと水のさかいにはたらく作用なので、洗剤のことを〝界面活性剤〟ということがあります。（界面は、さかいめのこと。活性剤というのは、はたらきを活発にする薬のことです。）

水にとかす洗剤には、ちょうどよい量があります。この量は、洗剤の容器に書いてあり、たいていは、0.1％ぐらいの濃度＊（30リットルの水に30～40gぐらい）で、ミセルとよばれる、目には見えない小さなものをかたちづくります。このミセルが界面活性剤のはたらきをするのです。そして、それより多くの洗剤をくわえても、⑤ミセルのはたらきはかわりません。必要以上に洗剤を使うのは、もったいないだけでなく、すすぎもたいへんだし、川や湖などをよごす原因になります。

（津田妍子『せんたくのはなし』）

＊濃度＝液体などのこさ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「衣類のよごれ」には、どんなものがありますか。次の二つに分けて書きなさい。

・上着につくもの

・下着につくもの

問二　――線②「衣類のよごれは、あぶらをふくんでいるものが多い」とありますが、このことからどんなことが言えますか。もっともよいものを次のうちから選(えら)び、記号で答えなさい。

ア　衣類のよごれは、こまめにせんたくしないととれにくくなるということ

イ　衣類のよごれには、水ではおとしにくいものが多くあるということ

ウ　衣類のよごれが、ほかのものをよごしてしまうことがよくあるということ

エ　衣類のよごれは、いろいろなよごれがたまってできたものであるということ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　――線③「このような水の性質」とは、どんな性質ですか。次の［　］にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

［　　　］とまじり合わないという性質

問四　――線④「コロコロした水の玉に、食器あらい用の液体合成洗剤を1滴たらしてみてください」とありますが、液体合成洗剤をたらすとどうなると考えられますか。

［　　　］

問五　――線⑤「ミセルのはたらき」にあてはまらないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　こまかいよごれを水中に散らばらせる。
イ　せんたくものに水をしみこませる。
ウ　せんたくものをかわきやすくする。
エ　あぶらを水にとかす。

［　　］

問六　この文章では、どのような流れで説明がされていますか。次の〔　〕にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

せんたくとは、衣類の〔　　　〕をおとすことである→〔　　　〕だけではうまくおちない→〔　　　〕を使っておとす

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　この文章の説明のしかたをのべた次の［　］にあてはまることばとしてもっともよいものをあとのうちから選び、記号で答えなさい。

・せんたくのしくみを、［　］に説明している。

ア　大げさ　**イ**　大まか
ウ　芸術的（げいじゅつ）　**エ**　科学的

［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　説明的文章⑥

一題目

問一　たらい・ひしゃく・手おけ・伸子・きぬた　（順不同）

問二　ウ

問三　麻・つる・ゴワゴワ

問四　（例）もみあらいやふりあらい

問五　もっとも古い・7世紀・井戸・道具・江戸

問六　ア

二題目

問一　〈上着につくもの〉（例）食事の食べこぼし、絵の具、ほこり、ふけ、土、どろ、ジュース、インク、紅茶など

〈下着につくもの〉（例）からだからでるあせやあぶら、あか

問二　イ

問三　あぶら

問四　（例）水があぶらとまじり合い、広がる。

問五　ウ

問六　よごれ・水・洗剤

問七　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。